

熊本県測量設計コンサルタント協会が「熊助組」へ寄付金贈呈
災害復旧活動の支援と業界への理解を深め学生に魅力発信



寄付金贈呈の記念撮影

熊本県測量設計コンサルタント協会（内田貴士会長）は4月30日、同協会事務局で熊本大学工学部公認サークル学生災害復旧支援団体「熊助組」へ寄付金を贈呈した。熊助組（学生登録約140人）とは、学生災害復旧支援団体で2007年から学生が主体となり、被災地での復旧・復興支援活動を続け、今年で20周年を迎える。瓦礫撤去から心のケアまで、学生ならではの情熱と行動力で多くの被災地で寄り添い、地域と未来を繋ぐ活動をしている。

冒頭の挨拶で内田会長は、「熊本県測量設計コンサルタント協会では、災害発生時にボランティアも含めた初動調査として現地に入り、道路や河川の被害調査をさせて頂いています。そうした活動の中で、同協会の滝川顧問を通じて熊助組さんの取り組みを知り、同じ志を持つ皆様の活動に賛同し、このたび寄付をさせて頂きたく事と致しました。また、これを機に、業界への理解を深めていただき、ぜひ学生の皆さんにも共有していただければと思います」と挨拶。



挨拶の内田会長

熊助組を代表して石留幸奈副代表（熊本大学工学部土木建築学科4年）は、「熊助組へのご寄付ありがとうございました。自分が入学した当初は、家を建てる事や建築物に関心がありましたが、熊助組の活動で災害現場に入り、自分事として捉える機会が多くありました。今後は、災害時に学生団体として求められる行動ができるよう、知識を深めながらボランティア活動を継続していきたいと考えています。そして、災害時に学生一人ひとりが自分事として向き合えるような機会をつくっていくことを目標に、今回いただいた寄付金を有効に活用してまいります」とお礼を述べた。

その後、熊本県測量設計コンサルタント協会の滝川清顧問（熊本大学名誉教授・協会技術顧問）、吉田志朗副会長（旭測量設計株式会社）、高宮龍二副会長（株式会社スペック）と熊本大学の竹内裕紀子副学長、久川朋美経営企画本部基金運営室係長、大塚永子経営企画本部基金運営室を交えて、記念撮影と和やかに懇談会が行われた。



お礼の言葉
左：石留副代表、右：竹内副学長



寄付金の贈呈式